

日本乳癌学会登録の包括的予後報告 2006 年

岩本 高行（岡山大学病院）

日本乳癌学会、Japanese Breast Cancer Society (JBCS)による乳癌登録 2006 年度予後調査を報告する。1975 年に開始された乳癌登録は 2003 年までの 29 年間で 188,265 症例が登録された。また、2004 年より、NPO 法人日本臨床研究支援ユニット (J-CRSU) ならびに公益財団法人パブリックリサーチセンターの協力のもと、登録システムを WEB に移行した。

2006 年度の登録機関は 352 施設、登録数は 22,005 症例であった。このうち、39.9% (8,788 症例) の 5 年予後の調査について報告する。追跡期間中央値 60.0 ヶ月、5 年無病生存期間 (DFS) は 93.5%、5 年全生存率 (OS) は 92.7%であった。TNM 分類は UICC 病期分類、組織学的分類は WHO 分類に基づいて登録した。年齢、TNM 分類ならびにエストロゲン受容体 (ER)、プロゲステロン受容体 (PgR)、ヒト上皮成長因子受容体 2 (HER2) の status ごとの予後について報告した。2006 年当時、ER、PgR および HER2 陽性のカットオフ値や HER2 測定法は標準化されておらず、トラスツズマブは徐々に日常診療で用いられている程度であったことは注意が必要である。また、ER 陰性/HER2 陽性症例では、DFS は 2004 年の 85.0%から 2006 年には 90.9%に、OS は 85.02%から 89.88%にそれぞれ改善した。

多くの方の努力と協力のおかげで結果を報告することができました。今後、乳癌登録事業のさらなる普及が必要であると考えます。

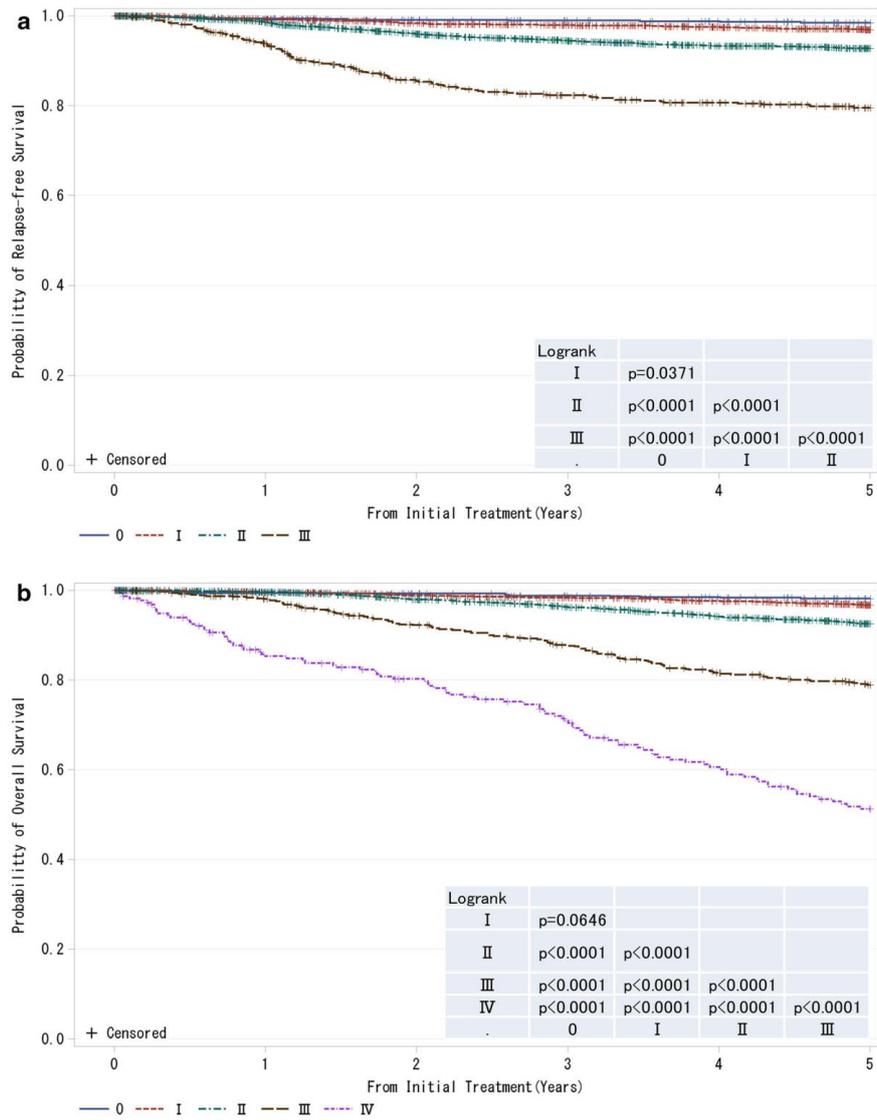


Fig. 3 a, b Kaplan–Meier curves for relapse-free and overall survival of all cases by clinical stage (UICC). *P* values were calculated using the log rank test